

アカマツ林植物社会学的調査

林床ばかり見てすごした草本勉強会の最終回、森林全体を把握する方法として植物社会学的調査という調査法の実習を行いました。慣れた場所ですが調査により今まで気がつかなかった多くの種を記録しました。「アカマツ林らしさ」を実感した機会でした。

植 生 調 査 票 2003年10月12日 調査者 森を育てる会

No.	調査地：油山アカマツ林 (福岡市南区松原)	3次メッシュコード：5030-2310
		1:2.5万地形図：福岡南部 南西
(地形)	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・台地・扇状地・平地・谷	(風当) 強・中・弱 (標高) 275 m
(群系)	高・低・植林：草・湿原：海(岸・浜・中)：河(岸・中)：池 (岸・中)：路・水田・畑・堤：砂・岩・樹上	(日当) 陽・中陰・陰 (方位) S80E
(土壌)	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・擬グライ・沼沢 沖積・高湿草・非固岩屑・固岩屑・水面下・その他()	(土湿) 乾・適・湿・過湿 (傾斜) 25°
		(母岩) (面積) 10×10 m
		(露岩) % (出現種数) 65

階層	高さ(m)	植被率(%)	優占種	胸径(cm)	種数	(備考)
I 高木層	17 ~	65	アカマツ	37	1	K=芽生え fr=果実
II 亜高木層	11 ~	40	-	17	3	fl=花
III 低木層	5 ~	70	ムクノキ		30	D=被度 調査面積内で対象種が占める割合
IV 草本層	0.9 ~	75	ウラジロ		48	S=群度 調査区内での対象種の集合の程度
V コケ層	~					

D-S: V	I	D-S: V	III	D-S: V	IV	D-S: V	IV
1 4・4: fr	アカマツ	2・3:	ムクノキ	4・4:	ウラジロ	+	ツタ
2		2・3:	ヤマウルシ	1・2:	コシダ	+	ツルウメモドキ
3		1・2:	ハゼノキ	1・2:	ヒサカキ	+	ツルリンドウ
4		1・2: fr	ヤブムラサキ	+・2:	ススキ	+	ナガバモミジイチゴ
5		1・1:	ヤマモモ	+・2: fr	チヂミザサ	+	ナキリスゲ
6		1・1:	リョウブ	+・2:	フユイチゴ	+	ネジキ
7		+	アオツツラフジ	+・2:	ヤブコウジ	+	ノブドウ
8		+	イヌザンショウ	+・2:	ヤブムラサキ	+	ヒメユズリハ
9		+	イヌビワ	+	アカメガシワ K	+	ヒヨドリバナ
10	II	+	エゴノキ	+	アラカシ	+	ビロードイチゴ
11 2・2:	ユズリハ	+	カエデドコロ	+	イタドリ	+	ヘクソカズラ
12 2・1:	タブノキ	+	クスノキ	+	イヌザンショウ	+	ミツバアケビ
13 1・1:	クスノキ	+	クリ	+	イヌツゲ	+	ミヤマウグイスカグラ
14		+	クロガネモチ	+	イヌビワ	+	ヤマウルシ
15		+	コシアブラ	+	エノキ K	+	ヤマツツジ
16		+	サルトリイバラ	+	キガンピ	+	ヤマノイモ
17		+	タムシバ	+	クサイチゴ	+	ユズリハ
18		+	タラノキ	+	クサギ K	+	リョウブ
19		+	ツタ	+	クロキ		
20		+	ヌルデ	+	コガクウツギ		
21		+	ネジキ	+	コシアブラ		
22		+	ネズミモチ	+	fr ササクサ		
23		+	ノイバラ	+	サルトリイバラ		
24		+	ハマセンダン	+	シャシャンボ		
25		+	ヒサカキ	+	シュンラン		
26		+	ビロードイチゴ	+	スダジイ		
27		+	ヘクソカズラ	+	fl センブリ		
28		+	ホオノキ	+	ソヨゴ		
29		+	ミツバアケビ	+	タブノキ		
30		+	ヤマノイモ	+	ツクシハギ		